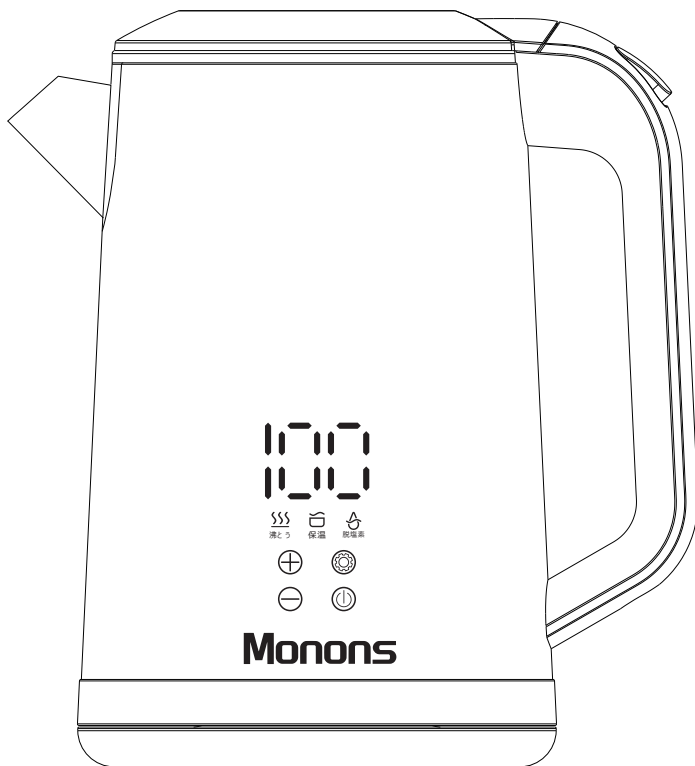


取扱説明書

電気ケトル-J160



お買い上げいただき、誠にありがとうございます。

- ・本製品を正しく安全にご使用いただくため、取扱説明書をよくお読みください。
- ・使用前に必ず「安全上の注意」をご確認ください。
- ・保証書は「お買い上げ日・販売店名」などが正しく記入されていることを確認し、取扱説明書と共に大切に保管してください。

目次

保証書.....	1
付属品の確認.....	2
お手入れ.....	2
安全上の注意.....	3~7
各部の名称と機能.....	8
LED表示ディスプレイの名称と機能.....	8
操作ボタンの機能.....	9
沸とうの操作設定.....	9
保温の操作設定.....	9
脱塩素の操作設定.....	9
使用方法.....	11
空焚き防止機能.....	13
洗浄方法.....	13
製品仕様.....	14
故障かなと思ったら.....	14
アフターサービスと品質保証.....	14

持込修理

電気ケトル 保証書

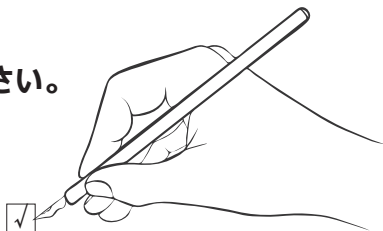
本保証書は、お買い上げ日から下記の期間中に故障が発生した場合、保証内容に基づき無償で修理をお約束するものです。記入いただいた個人情報の利用目的は保証書裏面に記載されています。個人情報に関するお問い合わせは、お買い上げの販売店（ネットショップを含む）にご連絡ください。

品番	J160
保証期間	お買い上げ日から 本体 1年間
お買い上げ日	年 月 日
お客様情報	ご住所 _____
	氏名 _____ 様
	電話番号 () -
販売店情報	住所・販売店名 _____
	電話番号 () -

付属品の確認

以下の付属品がそろっていることをご確認ください。

- ☐ 電気ケトル本体
- ☐ 電源プレート
- ☐ 取扱説明書



◆ 包装材料は商品を取り出した後、適切に処分してください。

お手入れ

- ◆ 長く清潔にご使用いただくために、定期的なお手入れを行ってください。
- ◆ 必ず電源プラグをコンセントから抜き、本体が十分に冷めたことを確認してから、柔らかい布で拭いてください。頑固な汚れには、中性洗剤を含ませた布で軽くこすり、その後拭き取ってください。
- ◆ 電気ケトル本体や電源プレートを水に浸さないでください。乾燥していることを確認してください。
- ◆ 強酸性の洗剤や腐食性のある洗剤は使用しないでください。
- ◆ ベンジン、シンナー、アルコール、台所用洗剤などの溶剤や化学薬品は、外装ケースが変質や変色する恐れがあるため使用しないでください。
- ◆ 内側のステンレス部分をお手入れする際は、柔らかいスポンジを使用してください。強くこすると、表面に傷がつく恐れがあります。

安全上のご注意

人への危害や財産の損害を防止するため、以下の注意事項を必ずお守りください。

■ 誤った使用による危害や損害の程度を以下のように区分しています。

⚠	危険	『死亡や重傷を負う恐れが大きい内容』です。
⚠	警告	『死亡や重傷を負う恐れがある内容』です。
⚠	注意	『軽傷を負うことや、財産の損害が発生する恐れがある内容』です。

■ 図記号の説明



【禁止事項】



【実行すべき内容】

安全上の注意 (よくお読みください)

- ◆ 本製品は家庭用です。業務用または一般家庭以外での使用、または取扱説明書に反する使用については、弊社は一切の製造責任および保証責任を負いかねます。

警告

電源・電源コード

定格15A・交流100Vのコンセントを単独で使用する

他の機器と併用すると、発熱による火災や故障の原因になります。

- ◆ 延長コードも定格15Aのものを単独でお使いください。



電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全な場合、感電・発熱による火災の原因になります。

※ 傷んだ電源プラグや緩んだコンセントは使用しないでください。



電源プラグや電源コードに損傷があるとき、または使用中に異常に熱くなるときは、直ちに使用を中止する

そのまま使うとショートや発火の恐れがあります。販売先にご相談ください。

電源プラグのほこりなどは、定期的に取り除く

プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

- ◆ 電源プラグを抜き、乾いた布で拭いてください。

異常が生じた場合は直ちに使用を中止し、電源プラグを抜く

そのまま使うとショートや発火の恐れがあります。販売先までご相談ください。

電源コードが傷んだり、コンセントの差し込みが緩いときは使用しない

そのまま使うと、ショートや発火するおそれがあります。



禁止

濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない。感電の原因になります。



電源プラグや電源コードを破損するようなことはしない

傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたりねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしないでください。傷んだまま使うと感電、ショート、火災の原因になります。



分解禁止

修理技術者以外の人は、絶対に分解や修理、改造を行わないでください
発火や異常動作によるけがの恐れがあります。

ふたを開けたまま湯を沸かさない

湯沸かし中は、必ずふたを閉めてください。
湯が流れ出てやけどをする恐れがあります。

ふたをもって電気ケトル本体を移動させない

湯が流れ出てやけどをするおそれがあります。

注ぎ口をふきなどでふさがない

湯が吹きこぼれて、やけどをするおそれがあります。

本体を抱きかかえたり、傾けたり、ゆすったりしない

湯が流れ出て、やけどをするおそれがあります。



禁止

本体や電源プレートを水に浸さない

感電・ショート・火災、故障の原因になります。

直火(ガス台などや電気ヒーター)、電磁調理器(IH)、電子レンジなどに使わない

火災・熱変色・変形・故障の原因になります。

電気ケトル本体の底部や電源プレートを水につけたり、水に濡らしたりしない

ショートしたり、感電するおそれがあります。

ふたを勢いよくしめない

湯が吹きこぼれて、やけどをするおそれがあります。

電気ケトルを転倒させない

湯が流れ出て、やけどをするおそれがあります。

子供だけで使わせたり、乳幼児の手の届く所で使わない

やけど、感電、けがの恐れがあります。

MAX 1.6L(満水)目盛り以上の水をいれない

水を入れすぎると、熱湯が飛び出しやけどや感電、けがの恐れがあります。



禁止

電源プレートの中央部（接続部）やケトル本体の接続部、電源プラグをなめない

感電やけがのおそれがあります。特に乳幼児には触らせないでください。

氷を入れるなどして保冷用に使わない

内蔵の電気部品に氷や露がつき、感電・故障の原因になります。

安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人（子どもを含む）には単独で使用させない。

また、本製品で子どもが遊ばないように注意してください。やけど、感電、けがの恐れがあります。

警告

電源・電源コード



使用時以外は、電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。



電源プラグを抜く際はコードを持たず、必ずプラグ本体を持つ

感電やショート、発火の恐れがあります。

お取り扱い



コンセントに電源プラグを差し込んでいるときは、電源コードをひっかけないよう気を付ける
本体が落下し、やけどやけがの恐れがあります。

専用の電源プレート以外は使わない。また、付属の電源プレートを他の機器に転用しない

発火・故障の原因になります。

湯沸かし中または湯沸かし直後は、ふたを開けたり、注ぎ口に触れたり、蒸気に手を近づけたりしない

注ぎ口などから熱い蒸気が出て、やけどをするおそれがあります。

湯沸かし中は、移動させない

湯が流れ出たり、蒸気でやけどをするおそれがあります。

牛乳を沸かす、紅茶を煮出す、スープを作るなど、湯沸かし以外の目的で使用しない
吹きこぼれて、やけどをするおそれがあります。さらに、故障や汚れの原因になります。

使用中及び使用直後に取っ手以外の本体および注ぎ口には触れない
やけどをするおそれがあります。



禁止

壁や家具の近くで使わない

蒸気や熱で壁や家具を傷め、変色や変形の原因になります。

ストーブやガスコンロなどの熱源のそば、または直射日光が当たる場所では使用しない
本体のプラスチック部品が熱で損傷し、けがややけどの恐れがあります。

ガラス窓の近くで使用しない

蒸気や熱の影響でヒビが入ったり、割れる可能性があります。

不安定な場所や、熱に弱い敷物の上、可燃物（カーテンなど）の近くで使用しない
火災の原因となったり、けがややけどの恐れがあります。

瓶やカップなど、水以外のものを電気ケトルの中に入れない

吹きこぼれてやけどをする恐れがあります。また、故障や汚れの原因になります。

電気プレート中央の接続部(金属部)にピンを差し込んだり、ごみを付着させない
感電・ショート・発火の原因になります。

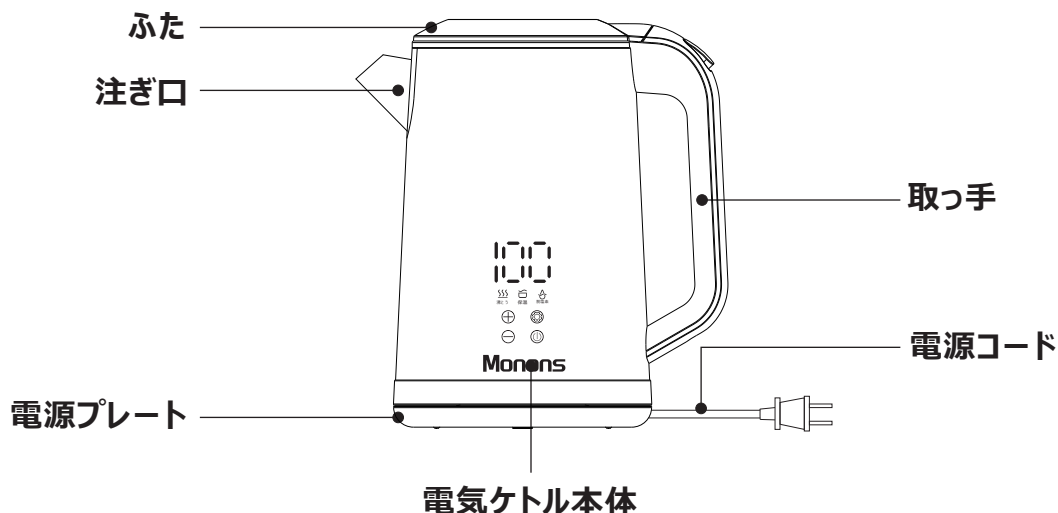
使用上のご注意

- ◆ 電気ケトルに水が入っていない状態でスイッチをオンにしない
故障の原因になります。
- ◆ ふたを開けた状態で湯を沸かさない
蒸気でやけどをする恐れがあります。
- ◆ 水質改善材や浄化材（備長炭など）、水以外のものを電気ケトルに入れない
故障の原因になります。
- ◆ 本製品は湯沸かし専用として使用してください。
- ◆ 本製品は一般家庭用です。
- ◆ 本製品は必ず屋内で使用してください。
- ◆ 直射日光が当たる場所での設置や使用は避けてください。
故障の原因になります。
- ◆ 長時間使用しないときは、十分に乾燥させたあと、おいがつかないようにポリ袋などに入れて保管してください。
- ◆ 使用後、ふたを開ける際には、蓋の内側に付いた水滴が跳ねる場合がありますので、注意してください。
- ◆ お湯が沸騰した後は、電源ランプが点滅する状態となります。これは製品の正常な動作であり、故障ではございませんのでご安心ください。
- ◆ お湯を注ぐ際は、本体を過度に傾けることはお控えいただき、ゆっくりと注いでいただきますようお願い申し上げます。
急いで注ぐと、フタの隙間からお湯が漏れる可能性があります。

お知らせ

- ◆ 電気ケトルは工場出荷前に水を入れて検品しています。まれに本体内に白い跡が残っていることがありますが、これは検品時の水の跡です。2～3回すすいだ後、安心してお使いください。
- ◆ 電気ケトルに錆の斑点が現れた場合、水に少量のレモンスライスを入れて沸かすことで効果的に取り除けます。

各部の名称と機能



LED表示ディスプレイの名称と機能



操作ボタンの機能

電源ボタン電源を入れ、[]をタッチすると、LEDディスプレイ画面が表示されます。

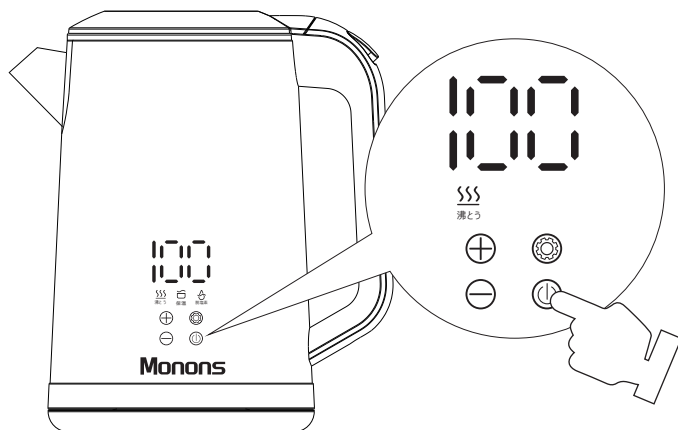
[]タッチして、「沸とう・保温・脱塩素」モードを切り替えます。

[ +/ー]ボタンを1回タッチすると、1度単位で温度を調節します。

[ +/ー]ボタンを長押しすると、5度単位で温度を調節します。

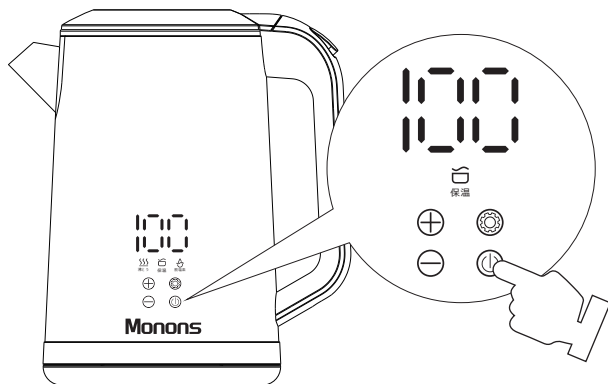
沸とうの操作設定

- ①電源入れた後、「」設定ボタンをタッチし、「沸とう」を選択し、100℃まで湯沸かします。
- ②電源入れた後、「」設定ボタンをタッチし、「沸とう」を選択し、「 」で温度調節すると湯沸かしの温度を設定できます。
- ③沸とうモードでは、「 」で温度を調節すると、水が沸騰した後に設定した温度まで下がります。



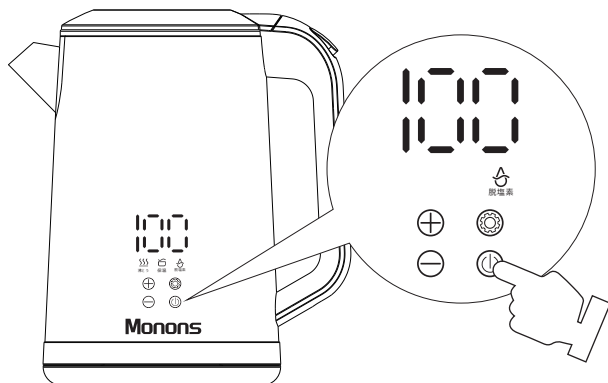
保温の操作設定

- ① お湯が100℃まで沸騰した後、自動的に保温モードに入り、水温が45℃になると保温機能が起動します。
 - ② お湯が100℃まで沸騰した後、[] をタッチして「 保温」を選択します。
 - ③ 「」ボタンをタッチし、45～100度まで保温の温度を調節できます。
 - ③ 保温モードでは、「」で温度を調節すると、水は直接設定温度に達します（100度でないと沸騰しません）。
- ※ 本製品の保温時間は8時間(MAX)でございます。



脱塩素の操作設定

- ① 電源を入れた後、[] をタッチして「 脱塩素」を選択します。これにより、100℃まで沸騰後、5分間100℃を保ちます。
- ② 「Di Di Di」の音が鳴ると、脱塩素完了します。
- ③ LEDディスプレイの表示完了後、[] が点滅します。



お使用前に、よくお読みください

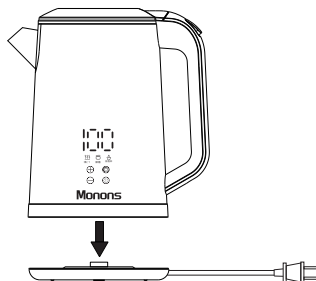
- ◆ 初めて電気ケトルを使用する際に、念のため最初の2～3回はすすいでからご使用ください。
- ◆ 使用前にふたがきちんと閉まっていることを確認してください。加熱中は、ふたを開けたり蒸気に手を近づけたりしないでください。やけどの恐れがあります。
- ◆ お湯でやけどをしないように、使用中は電気ケトルを動かさないでください。
- ◆ ミネラルウォーターやアルカリイオン水を沸かしたときは、水に含まれるミネラル成分が電気ケトル内部に付着しやすくなります。
例えば、白い浮遊物、虹色などの変色、白いはん点、赤さび状のはん点など、定期的お手入れしてください。
- ◆ 水以外のものは沸かささないでください。吹きこぼれて、故障の原因になります。
- ◆ 水を入れすぎた場合、熱湯が飛び出すことがありますので、MAX(満水1.6L)以上は水を入れないでください。
また、水を入れないまま、空だきをしないでください。故障の原因になります。
- ◆ 電源プレートは清潔で平らなところに置いてください。
- ◆ 電源プレートにセットする際は、電気ケトル本体が安定していることを確認してから手を離してください。

使用方法

- 1 電気ケトル本体に必要な量の水を入れ、ふたを閉めます。

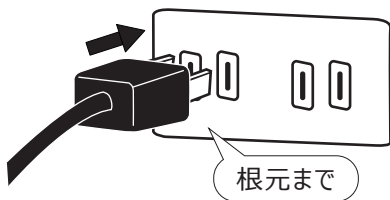


- 2 電気ケトル本体を電源プレートに正しくセットする。



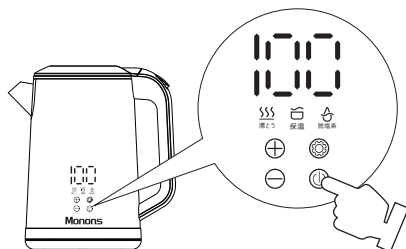
- ◆ 電源プレートは清潔で平らなところに置いてください。
- ◆ 電源プレートにセットする際は、電気ケトル本体が安定していることを確認してから手を離してください。

3 コンセントにプラグを差し込む。

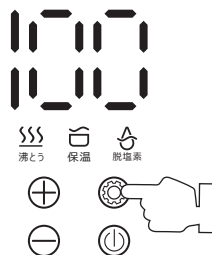


- ◆ コンセントの根元まで差し込んでください。
- ◆ 電源がオンになり、電気ケトル本体に電源ボタンを点滅する。

4 電源ボタンをクリックして、LEDディスプレイ画面を示す。



5 操作は、対応するボタンから行います。



- ◆ ご注意：使用しないときは、コンセントからプラグを抜いてください。

6 ご使用後、水垢の付着をおさえるため、お湯を残さず、電気ケトル本体内部を空にしてください。



空焚き防止機能

- ◆ 電気ケトル内部に水が入っていない、または水量が極端に少ない場合、空焚き防止機能が起動します。この際、「カ、カ」と2回音が鳴り、電源が自動的に切れます。

電源入れ直す方法

1 電気ケトルに冷水を補充し、過熱状態を解除する。

2 放置されて、電気ケトルの温度が自然に冷ます

- ◆ 過熱状態が解除されると、感知センサーが再起動可能と判断します。
適切な水位と温度であれば、お湯を正常に沸かすことができます。

安全装置のロック機能

- ◆ 過熱状態が解除されていない場合、電源プラグをコンセントから抜いて再度差し込んでも電源が再起動しないことがあります。この場合、販売元にお問い合わせください。

洗浄方法

- ◆ 水垢はアルカリ性汚れなので、クエン酸などの酸性の成分で掃除します。クエン酸には消臭・除菌効果があり、体内に入っても問題のない成分でできているので安心です。ホームセンターやドラッグストアで入手できる。
- ◆ 「クエン酸」を使ったポット内側の洗浄方法
 - ① コップにクエン酸とぬるま湯を入れてクエン酸水を作る。
 - ② ポットにクエン酸水を入れて、満水ラインまで水を加える。
 - ③ スイッチを入れて、お湯を沸かす。
 - ④ スイッチが切れた後、2～3時間ほど、そのまま保温しておく。
 - ⑤ まだ汚れが残ってる場合は、お湯を捨てて、スポンジで内側をやさしくこする。
 - ⑥ 最後は水ですすいだら、フタを開けっ放しにしてしっかり乾燥させる。
 - ⑦ 茶色や緑色のサビ汚れもある場合は、クエン酸と同じ量の重曹を入れると効果的。1回でキレイにならないガンコな汚れの場合は、何回か行う。

製品仕様

品番	J160
定格電圧 (V)	AC100~120V
定格消費電力 (V)	1100W
定格周波数 (Hz)	50~60Hz
定格容量 (L)	1.6L MAX
本体重量	約1.3Kg
外形寸法	幅156*奥行き220*高さ247mm
コード長さ	約1m(プラグ含まず)
材質	PP樹脂+ステンレス
保温時間	8時間(MAX)

故障かなと思ったら

加熱されない	・動作モードを誤選択し ・通電していない ・水温を検知できない	・沸とうモードを選択する ・コンセントに電気プラグを差し込む ・販売先へご連絡ください。
電気ケトルが作動しない 沸とう前に止まってしまう	・通電していない ・空焚き防止機能が起動している	・コンセントに電気プラグを差し込んでください。 ・冷水を加えて数秒後に空焚き防止機能を解除してください。
電気ケトルが作動しない 沸とう前に止まってしまう	・水量がMAX (1.6L) の目盛を超えている。 ・水以外の飲料が入っている (例：牛乳、ジュースなど)。	・水量はMAX(1.6L)目盛以下に減らしてください。 ・水以外の(牛乳や飲料など)は沸かさないでください。

アフターサービスと品質保証

本製品の品質保証期間は、お買い上げ日から1年間です。
製品に関するお問い合わせや不具合がある場合は、アフターサービス公式LINEを追加し、LINE上で対応を受けてください。

営業時間：平日10:00~18:30(土日祝、年末年始を除く)

